

2021年3月期第1四半期 決算説明会 質疑応答

2020年8月6日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：新型コロナウイルス感染拡大において、心臓血管カンパニーやホスピタルカンパニーの第1四半期業績への影響は、想定と比較してどうだったか？

A1：心臓血管カンパニーについては、実際は4月に底を打ち、5月、6月と臨床現場の症例再開が進んだ。第1四半期に戻り始めた症例は大半がバックログの解消であったと推測している。一方、依然予断を許さない情勢ながら、現場からは新型コロナウイルス感染拡大以来、新規に診断された症例も入りつつあると聞いている。これらの結果、心臓血管カンパニーについては想定を少し上回った。

ホスピタルカンパニーについては、新型コロナウイルス感染拡大において、体温計や手指消毒剤の特需が想定よりも大きかった。

Q2：調整後営業利益増減分析において、売上総利益率の悪化による減少の28億円のうち、在庫の積み増し効果はどのくらいあったのか？

A2：積み増しを行わなかった場合と比較して、十数億円規模のポジティブな効果があったとみている。今後の需要回復につれて在庫水準の適正化のために生産高を調整していくため、この反動を想定しており、これが今年度の業績予想で収益性の改善が緩やかになると見込んでいる要因の一つになっている。

Q3：調整後営業利益増減分析において、売上減による売上総利益の減少の91億円のうち、最も影響を受けたカンパニーは？またそのカンパニーのなかでも、大きく影響を受けた事業はどこか？

A3：最も影響を受けたのは、心臓血管カンパニー。そのうち、TIS事業が最も影響が大きく、次いでニューロバスキュラー事業が影響を受けた。

Q4：心臓血管カンパニーのTIS事業の直近における売上や症例数減少の傾向は？特有の傾向を示している地域はあるか？

A4：新型コロナウイルス感染拡大の影響で、TIS事業は4月には3～4割の減収だったが、6月には1割程度の減収まで回復しており、この傾向は7月も継続している。一方で、症例数と比較すると、この売上は少し強めに立っている傾向があるとみている。この第1四半期売上の傾向が、需要の先食いかどうかは、今後リスクとして注視していく。地域別に見ると、欧州や米州の売上の傾向は全体のそれとほぼ変わらないが、中国の回復が早い傾向にある。特にアクセスデバイスに関しては、前年比マイナス1桁%（為替影響含む）まで回復しているため、前年度比プラス伸長に向け近いところまで来ているとみている。

Q5：中国における売上回復の状況はどのくらいか？また中国のニューロバスキュラー事業において、代理店の受注タイミングによるネガティブ影響を受けているということだが、この背景は何か？

A5：代理店の受注タイミングによるネガティブ影響を除くと、前年度比△9%となっており、その他海外の地域と比較して最も早く回復していることが確認できている。代理店の受注タイミングによるネガティブ影響を受けている理由は、ニューロバスキュラー事業において、サプライチェーンの再構築を実施していることが要因。同事業の中国市場へのコミットメントを深め、流通体制の近代化を図ることを目的に整備を進めている。今年度は、これに伴う発注タイミングのズレや在庫調整が発生することに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響など不確定要素が多く、中国での同事業の売上が不安定となる可能性があるとみている。サプライチェーンの再構築については、今年度中の安定化を図っていく。

Q6：ニューロバスキュラー事業において、グローバル売上が前年同期比で△37.2%と落ち込みが大きくみえるが、これも中国でのサプライチェーン再構築の影響か？また第2四半期以降はどのように見込んでいるのか？

A6：中国のサプライチェーンの影響を大きく受けている。この影響を除くと、売上前年同期比は△21%となっており、心臓血管カンパニー全体の売上前年同期比△23%に近い結果になっている。新型コロナウイルス感染症流行前から好調だった血栓吸引カテーテル「SOFIA」は緊急症例が大半の脳梗塞の治療で使用されるため、新型コロナウイルス感染拡大の影響をほとんど受けていない。また袋状塞栓デバイス「WEB」については脳動脈瘤の治療に使用されるデバイスのため一時は売上が半減したが、6月から回復傾向にあるため、ニューロバスキュラー事業全体としてこのまま力強く回復に向かうと想定している。

Q7：2020年度の業績予想の考え方について、5月の期末決算時に示していたシナリオと比較して、どのように捉えたら良いのか？

A7：少なくとも、最悪のシナリオではない。一方で楽観的なシナリオかといういうとそうでもなく、これらの中庸と捉えていただきたい。

Q8：2020年度業績予想について、営業利益と調整後営業利益の業績予想のギャップが、昨年度実績と比較して増加しているのだが、この要因は何か？

A8：2018年度に資産買収を発表した大口径止血デバイスを開発した台湾のメデオン・バイオデザイン社に対して、第2四半期以降マイルストーン払いが発生し、調整額が増加する予定のため。

Q9：心臓血管カンパニーの今年度の売上収益の回復を鑑みると、全社の調整後営業利益予想が低く見えるのだが、この背景は？

A9：回復するとはいえ、通期では心臓血管カンパニーは減収予想であり、収益性が高いが

ゆえにミックス悪化への影響は残る。新型コロナウイルス感染症流行前の水準近くに戻るにはタイムラグがあるとみている。

Q10：血液・細胞テクノロジーカンパニーの2020年度業績予想について、第1四半期売上実績が為替を除くと前年同期比+7%となっているのにもかかわらず、今年度の見通しでは前年比+2%と、横ばいになっている理由は？

A10：第1四半期は、血液センター事業で前倒しの需要もあり好調だったが、第2四半期以降その反動を想定し、年間を通じて横ばいと見込んでいる。

以上